

ヨゼフ・アベイヤ司教 — 四旬節メッセージ

みことばに耳と心を傾けて

今年も四旬節を迎える季節になりました。毎年この時期に教皇様からメッセージをいただきます。この原稿を書いている現在、教皇様の四旬節のメッセージはまだ発表されていませんが、発表されたら皆さんにお届けいたします。四旬節を有意義に過ごすための大きな助けになります。

回心への招き

四旬節の間、回心への招きは様々な形で繰り返されます。灰の水曜日の典礼の中では、ヨエルの預言が読まれます。「主は言われる。今こそ、心から私に立ち返れ」(ヨエル 2・12)。回心は、主が示される道に立ち返ることであり、共に歩んでくださるイエスとのつながりを深めることです。同じ灰の水曜日の典礼で朗読されるパウロのコリントの教会への手紙には、次のように書いてあります。「今は、恵みの時、今こそ、救いの日です」(Ⅱコリント 6・2)。確かに、四旬節に主とのつながりを深めるとき、繋がりを深めれば自分のために、共同体のために、また、自分や共同体に関わる人々のために「恵みの時」となります。

四旬節の回心の呼びかけに応えるために、皆さんに具体的な提案をいたします。みことばに触れる時間を増やしてください。できれば毎日時間をとって、聖書を読むようにしてください。毎日のミサの朗読を読むことは一つの具体的な方法です。「聖書と典礼」の後ろのページには毎日の典礼で読まれる箇所が記されています。毎日が無理であれば、日曜日のミサで朗読されるみことばを自分で改めて読み、そのメッセージをより深く考えてみることも、もう一つの方法でしょう。みことばを通してイエスに触れ、天の父の心に満ちている愛と慈しみをより深く味わうことができます。しかし、「どのように読めばいいかわからない」と言う人もいらっしゃるでしょう。

聖書の読み方

聖書を通して、神様は私たちに語りかけてくださいます。ただ、聖書のメッセージを正しく理解することが必要です。二千年以上も前に書かれたものですから、注意しないとそのメッセージを間違っって受け取る危険性があります。こういう意味で、聖書の読み方を学ぶ必要があります。様々な方法がありますが、ここでよく使われている一つの方法を紹介します。四つのステップがあります。

1. まず、聖書の箇所を注意深く読みます。読まれた聖書の箇所に何が書いてあるかをはっきりつかむことが第一ステップです。この箇所には、
 - 何が書いてあるか。
 - 誰が登場しているか。
 - その人々は何をして、何を言って、どのような反応を示しているか、など。
 - その箇所の中でよく分からないことは何か。
2. 読まれた聖書の箇所は、書かれた時(時代)に、何を誰に伝えたかったか。このことばを当時聞いていた人々は、どのようにそのメッセージを受け止めたか。言い換えれば、時代の背景を把握することです。これは少し難しいかも知れませんが、聖書の解釈の本があれば助けになります。グループで聖書を読むとこの作業は簡単になります。しかし、もし無理ならこのステップを省いて第3ステップに進んでください。
3. 読まれたみことばを通して、今日、私・私たちに、神様は何を語ってくださるのでしょうか。神様が何を伝えようとしておられるのでしょうか。それを、祈りのうちに考えます。心には、どのように読まれたみことばのメッセージは響いてくるのでしょうか。慰め、あるいは問いかけになったりするでしょう。また、平安を感じさせるときもあれば、目を開かせるときもあります。様々な反応を起こします。特に、心に響いたことばがあれば、マークしてゆっくり思いめぐらします。
4. そして、最後に、私・私たちに、今日改めて語ってくださった神様にどのように応えるかを考えます。そのために簡単な祈りを書いたり、一つの決断・決意を捧げたりすることが大切です。

グループでともに聖書を読み、与えられた気づき、問いかけ、恵みを分かち合うと、みことばはより深く心に入り、生活の支えとなります。最近教区報で、様々な小教区やグループで行われている聖書の分かち合いや研修会を紹介しています。福岡教区で、こういう集いが増えていくように期待しています。

実り多い四旬節を過ごせますようにお祈りいたします。

ヨゼフ・アベイヤ

